

先生と子どものための

Fun with

ENGLISH

in 新潟



小学校と中学校の
つながり・連携を考える

目次



小学校英語への期待

小学校の先生方と小学生の無限の可能性を信じて

上越教育大学 名誉教授 北條 礼子



小学校と中学校をつなぐ外国語授業のポイント

新潟市立下山中学校 山崎 寛己



授業中にうつむく子どもたちも元気にしたい!

長岡市立豊田小学校 矢嶋 隆之

自律的学習者を育成する場を外国語でデザインする

新潟市立味方小学校 進藤 豪人

心が動く英語授業を目指して

新潟市立下山中学校 山崎 寛己



知が啓く。

啓林館



小学校の先生方と小学生の無限の可能性を信じて

上越教育大学 北條 礼子

小学校英語にかかわるようになったきっかけ

私は教育工学的な方法論に基づく英語教育が専門でしたが、現職派遣の小学校教員の方がゼミ生になったことや、勤務先の附属幼稚園・附属小学校で英語の出張授業を行うようになったことなどから、小学校英語を研究対象とするようになり、勤務期間の約半分は小学校英語に携わりました。

附属幼稚園での授業は、年長組のみ月1度、可能な限り all English で実施しましたが、予想外に幼稚園児はよく理解し、楽しんで参加してくれました。

附属小学校での授業は3年生ークラスからのスタートでした。アルファベットと簡単な英単語が読めるようになることを目的にし、手探り状態でフォニックスを取り入れました。附属小学校は、各回30分モジュールの授業であり、2・3学期に実施した計10回の中にたくさんの内容を詰め込みました。

授業では、担任の先生から「子どもたちがアルファベットを書きたがりますがどうすればよいでしょう」と質問を受けました。しかし、当初はアルファベットを書くことを取り入れる余裕がなく、数年後に3年生以上の全クラスで授業を実施するようになりました。その過程で、子どもたちは「英語を話せるようになりたい」というだけでなく「アルファベットや簡単な英単語を書けるようになりたい」という気持ちが強いことが分かり、思い切ってアルファベットのフォニックス読みに加えて、大文字・小文字を書く活動を取り入れました。当時、アルファベットを扱うことは奨められていなかったのですが、先進的な取り組みを認めてくださった附属小学校には今でも感謝しています。

書く活動を取り入れたとき、児童にとってそれは難しい作業ではないと信ずるに至っていました。そこには、

- ① 子どもは小学校入学後漢字を学ぶため、3年生までに空書き・なぞり書き・写し書きという書く作業に慣れていること
- ② 書くことは個人で黙って行う作業なので、英語で発表するより心的負担が少ないこと
- ③ アジアの諸外国でも書くことをしっかり取り入れているので、アジアの子どもたちのできるのであれば、日本人の子どもにも必ずできると信じたこと

という3つの背景があります。

さらに、日本の小学校英語の授業もできるだけ参観する中で、アルファベットを習っていないと、多くの子どもが、5年生以上になった時英単語の読み書きができず、学んだ英語をカタカナで書いていることに気がつきました。英語をカタカナで表記すると英語らしい音ではなくなってしまう、外国人に恐らくわかってもらえない英語になってしまいます。

文字を教えないとこのような状況を引き起こしてしまいますが、今回の学習指導要領でアルファベットを扱えるようになったことは、遅まきながらとても良かったと感じています。

アジア・ヨーロッパ諸国の小学校英語

上越教育大学在職中に、海外の小学校英語の実情を知るため、アジアでは中国・韓国・タイ・インドネシア・フィリピン・台湾・ベトナムの小学校を訪問しました。また、授業参観はできなかったもののマレーシア・シンガポールの小学校英語関係者に会うことができました。その他にも、ヨーロッパではドイツ・チェコ・スロベニアの小学校に行きました。

アジア諸国はどの国でも小学校の先生方が熱心に英語を教えている、その姿に大変感銘を受けました。韓国は政府指導の形で国定教科書や教材が配布されましたが、本来なら日本もこのような形で小学校英語が教科化されたら小学校の先生方は楽だったのではないのでしょうか。

ただ、現実的に言えば、日本は検定教科書でスタートしたので、政府からの方針が示されている一方で、小学校の英語担当教員の裁量がある程度認められている台湾の英語教育から、示唆がたくさん得られると感じています。

私の勤務先には海外教育実習と言っても良い授業がいくつかあり、私はそのうち台湾に2校ある提携校先の1校のコーディネータをしています。提携先の台湾の嘉義大学附属小学校には、コロナ禍で渡航ができなくなるまで10年以上毎年訪問し、同校の英語の先生方の素晴らしい英語の授業に参観してきました。毎年参観するたびに授業が洗練されて進化している様子を目の当たりにできたことは大変幸せでした。その中でも Vivian 先生の3年生を対象に三人称単数の s を導入する授業は、録画が許されたので、その様子を大学の授業で学生や大学院生に紹介しました。自作の教材を電子黒板で自由に扱って、ジェンダー教育の内容も絡め、自然な流れで無理なく児童に説明していたのには本当に感心しましたし、児童も良く理解していたように見受けました。

その他に台北市の先進的な取り組みをしている大学附属小学校を何校か訪問しましたが、教室の壁に貼ってある6年生児童が書いた夏休みの思い出という英作文は、ほとんどが短文で難しい英語を使っているわけではないけれども、自分の気持ちをしっかりと表現できていて、文法やスペリングの誤りもほとんどなく、素晴らしいものでした。友人の大学英語教員に、誰が書いたのかを言わずにその英作文を

見せたところ、中学2年生くらいが書いたと思った、との感想で、私の独りよがりな感想ではないことも確かめた覚えがあります。

小学校英語への期待

私は、小学生が英語を学ぶ姿を、出張授業などを通して長年見てきましたが、小学生の理解力の素晴らしさには感嘆しています。中学生以上だとそのまま受け取るのが難しいような内容でも、小学生は砂に水が染み込むようにスーッと英語が入っていく印象があります。フォニックスを用いてアルファベットの原則的な読み方を教える際に、例外的な読み方をする英単語を黙って混ぜ込んだとしても、何の問題もなく受け入れ、短期間でもアルファベットの文字や単語をかなり読み書きできるようになる姿を、何度も目にしました。脳科学の分野では言語学習のスイッチは小学生時代に入ると聞いていますが、全くそのことを実感した次第です。

日本の小学生は、英語をアルファベットであれ、単語であれ、短い文であれ、書くことが大好きです。私はこの書くことが大好きという気持ちを大事にして、それを活かしてどんどん書かせることが最良ではないかと思っています。語学学習にはドリルが不可欠ですので、例えば、子どもはゲームをしているつもりだけれども、教員側からしてみるとドリルを仕組んでいる、というように、なるべく楽しい要素も入れて、小学生だからと言って簡単なことばかりではなく、時には少し難しいことであっても、その単語や表現、文法事項が必要であれば特別な説明をせずに、提示していくのが良いと信じています。

小学校の先生方の頑張りにも頭が下がっています。教科書の電子教材を積極的に活用して、子どもと共に楽しんで英語を学んでいただくことを心から期待し、応援しています。



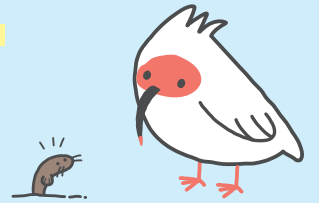
上越教育大学 北條 礼子

宮城県出身。国際基督教大学修士課程修了後、東京工業大学博士課程満期退学。上越教育大学に31年勤務後、特任教授として在職中。

Profile



小学校と中学校をつなぐ 外国語授業のポイント



新潟市立下山中学校 山崎 寛己

小中連携が大切だという意見に否定的な方はいないと思います。その一方で、何をどのように連携・接続していけばいいのか困っている方も少なくないはずです。私は現在中学校教員ですが、2019年度に小学校専科教員として、担任とともに外国語の授業をしてきました。そのときの経験や、新課程を受けてきた中学生を目の前にして考える、望ましい小中連携について、ここでは4つのポイントに絞って考えていきます。

接続のカギは校区の小中連携会議

「英語教育実施状況調査」2021から見えること

突然ですが、みなさんの勤務している校区に英語授業に関する定期的な連携会議はありますか。令和3年度に実施された英語教育実施状況調査によると、新潟県および新潟市の小中連携に関する取り組み状況は、全国の平均よりも下回っていることがわかります(表)。

表 英語教育における「小中連携」の状況及び取組内容

	小中連携を実施している割合	情報交換を実施している割合	出前授業などを行っている割合	到達目標設定をしている割合
新潟県	61.8%	54.3%	30.1%	9.8%
新潟市	63.2%	52.6%	22.8%	7.0%
全国	72.5%	62.6%	39.7%	20.2%

令和3年度「英語教育実施状況調査」の結果について、文部科学相 HP より

小学校と中学校で、教科書や指導者は異なりますが、学習の当事者である子どもたちは変わりません。つつい「忙しいから」を理由に時間の捻出を諦めがちですが、小中の連携会議は時間を作ってでも持つべきものだと思います。まず外国語担当者がお互いの顔を知ることから始めてみませんか。定期的に会議を持つことができれば、授業参観、教科書の内容や定期テスト(特に中1)の交流、やりとりやスピーチ、作文などのパフォーマンス課題の映像や作品などを見る機会を持つなどして、理解が深まることが期待できます。ここは、専門性を持つ中学校の先生が率先して管理職の先生に伝えれば、すぐに実現可能となりますよ(体験談です)。

学習の「題材・内容」で連携する

中学校の先生で「小中接続」と言っても何をどう接続をすればいいのだろうと思う方にまずオススメするのは、題材をリサイクルすることです。中学校で扱う言語項目の活用には、何らかの目的・場面・状況が設定されています。これは小学校も同じで、例えば夢の時間割を級友に紹介する活動や、中学校生活の目標をスピーチする单元などがあります。

自分の実践例を挙げます。中学校1年生で小学校の復習や既習表現の練習も兼ねて「行きたい国紹介スピーチ」をしました。はじめにしたことは小学校の教科書を生徒に見せて、QRコードでリスニング問題に取り組むことでした。生徒たちは「懐かしい!」「なんだったこれ?」などと言いながら、1年前に学習したことを思い出しながら楽しそうに取り組みました。その後、中学校でさらに学習した表現を加えながら、ICT端末を用いてそれぞれの行きたい国を発表しました。中学校でイチから取り組まずとも、小学校の学習内容を思い出しながら活用することで、子どもたちも自信を持ち、安心してスピーチをしていました。

図 スピーチのスライド掲示例



(生徒スピーチ例)

Hello. South Korea is a nice country.

Do you like K-pop music? I love it. BTS is very cool. You can enjoy their music and dance.

What food do you like? My favorite is meat and cheese. In South Korea, you can eat cheese dakgalbi. It's delicious! I want to go to South Korea.

「音声中心」は小学校でも中学校でも

小学校では、たっぴりと音声を聞き、繰り返し登場する表現を使って、先生や友だちに聞きあったり答えたりすることで、学習を進めていきます。たとえ What did you eat? - I ate fish. と言うことはできても、それを覚えて書くことまでは求められません。また Where do you want to go? I want to go to France. がすらすらと言えたとしても、まとまりで覚えているため、I want to practice badminton. などと言えるとは限りません。

単語を書けるように指導したり、ate は eat の過去形であることを確認する、to 不定詞を用いて自分がしたいことを表現したりするという文法の整理や指導は、中学校の役割となります。

ここで考えたいのは、小学校段階で音声を中心にコミュニケーションをする楽しさや大切さを学んできた生徒たちの、中学校段階でのレディネス(学習準備)形成です。中学校の先生方は、最近の生徒たちに今までの生徒たちよりも聞く力や英語を発話する抵抗感のなさを感じているはずですが、教科書内容や文法項目など指導すべきことはたくさんありますが、いきなり単語や文法を全面に出すのではなく、まずは Teacher's Talk で内容・意味を音声中心にしながら先に扱い、英語は後でまとめるという順番で、実際のコミュニケーションをしながら授業を作りたいものです。

中学校でも文字と音をつなぐことから

「生徒は小学校でアルファベットを書いて中学校へ入って来るから、もう文字指導をしなくても大丈夫でしょう?」という意見を聞いたことがあります。私は中学校でこそ文字指導が必要だと思います。確かに小学校の成果としてある程度書けることは期待できますが、その文字が音声と結びついていて、書きやすい運筆であるかは定かではありません。短時間の帯活動で良いのでフォニックス(オススメは Jolly Phonics)やオンセット・ライム(母音の前の子音+母音とその後ろの音: stop なら st + op)などを用いて音と文字をつなぐ活動をしながら、手書き文字の指導も行いたいものです。その際、意識したいことは教材として提示する文字のフォントです。教員は、つい手書き文字風の書体(Comic Sans)を選びがちですが、実は活字体と同じ構造でできているため児童生徒が手本とするフォントとして適切ではありません。書き写す活動で手本となる Sassoon 系のフォントやモリサワの UD Digikyo Writing などが効果的でしょう。

Sassoon Primary

What we talk about when we talk about teaching English.

UD Digikyo Writing

What we talk about when we talk about teaching English.

まとめ

小中の外国語(英語)授業をスムーズにつなげるために、連携会議を持ち、題材や内容を把握し、音声を中心に、音と文字とつなげる指導をしていくことが大切です。子どもたちの「英語って楽しい」「授業がわかる」を引き出すような授業を創造していきたいですね。

参考文献

村上加代子編(2019)『目指せ!英語のユニバーサルデザイン授業—みんなにわかりやすい小・中学校の授業づくり』学研プラス。

手島良(2019)『これからの英語の文字指導—書きやすく 読みやすく』研究社。



山崎寛己

1987年新潟市生まれ。上越教育大学大学院修了(英語教育学)。大阪府の公立小中学校で8年間勤務し2020年度より現職。英語授業研究会運営委員。中学校英語検定教科書『Blue Sky』編集委員。近刊に『動画でわかる]英語授業ハンドブック・中学校編』(大修館書店)がある。アマチュアサウナー。

Profile



授業中にうっむく子どもたちも 元気にしたい!



長岡市立豊田小学校 矢嶋 隆之

あなたの目の前にいる子どもに「何で外国語を学ぶの?」と聞いたとき、一体どんな答えが返ってくると思いますか? 「世界とつながり、自分を磨くため」「世界を平和にするため」そんなことを言える子どもに育ててみたい。そう思いながら子どもたちと向き合ってきました。

でも、現実はその甘くありません。教材研究の時間が無い! そんな現実と闘いながら「これくらいなら自分にもできそう!」そう思っていたら最高です。私は、子どもたちだけでなく、同じ職に就く者として先生方にも元気になってほしいと願っています。

はじめに

デジタル教科書を使って授業はなんとかできる。でも授業を重ねるたびに一部の子どもたちのやる気が低下していくのを感じる。何とかしたいが、外国語の教材研究をする時間がなかなかとれない。私なんか外国語を担当していてよいのだろうか。そんなことを感じている教師は、少なからずいるのではないのでしょうか。ちなみに私もその一人です。

優れた実践を見て思うこと

「確かにすごいな。やってみたいけれど、自分にはできそうにないな」そんな思いをしたことはありませんか? ICTの発達により、ネット環境を利用して海外の教室とつながることが容易になりました。確かにそういう方法もあります。でも、それを一から始めるとしたらその準備にどれだけの時間がかかるのか不安になる方もいると思います。そういう方法が得意な方はどんどん取り入れていくべきです。でも、私が話題にしたいことは、もっと日常的なことなのです。「1人の100歩より、100人の1歩」これが私のテーマです。

そもそも言葉ってどうやって獲得するの?

言葉を獲得し始めの子どもが「だっこ」と言う言葉を発するとします。それは、なぜでしょうか? 自分の「甘えたい」という感情を満たすことができるから。「疲れてもう歩けないから助けてほしい」と

いう願いを伝えることができるから。「一緒に遊んでほしい」という気持ちを伝えることができるから。そこには、話者にとって「言葉を発する必要感」があります。こういう成功体験や失敗体験を繰り返しながら私たちは言葉を獲得してきたはずです。

さて、日本中の教室において外国語で話す必要感はどうくらいあるのでしょうか? 先ほど述べたような母語が異なる相手とコミュニケーションをとるときには、必要感が生まれます。ただ、そこだけを重視しすぎると、授業は成り立ちません。

外国語の授業を支える2つの視点

「この活動って日本語でも楽しいかな?」

「そこに思いはあるかな?」

私は、この2つの視点を大切にしています。先ほどの抱っこ例には「必要感がある」ということだけでなくもう一つの側面があります。それは「自分の思いを言葉に乗せている」ということです。

では、どうやって外国語の授業を行っていくとよいのでしょうか。気合を入れて単元全てを考え直す必要は全くありませんし、そんな時間はまず確保できません。おすすめは、授業前に単元の最後の活動を先述の2つの視点から見直すことです。それだけでも授業は大きく変わります。だまされたと思ってぜひ取り組んでみてください。

私の実践を1つ紹介します。When is your birthday? を扱う単元は、いろいろな教科書に掲載されていると思います。ここでひとアレンジ! 私は、

When is your birthday? を When is your special day? に変えてみました。たったこれだけです。どんな効果が生まれるのでしょうか？

「ねえねえ、あなたにとって特別な日っていつ？」こんなことを普段の会話では聞きません。でも、外国語というフィルターを通すとすんなり聞いてしまいます。日本語で言うとちょっと照れくさいことに挑戦できるのも外国語のよさです。そして、聞いてみたら意外な発見があります（知的好奇心がくすぐられて楽しい）。人に聞かれることで自分の内面を見つめることもできます。外国語を通して、こんな経験を積み重ねていけたらと考えています。

その言葉を学ぶ意味って

When を学ぶ意味ってなんだろう？

「相手の予定が聞ける」

「相手と約束ができる」

「相手のことをもっと知るチャンスになる」

これが私なりの考えです。

そして、これをもとに下記のようなゴールをイメージしました。このイメージは、when を学ぶ意味と一緒に、単元の初めに子どもたちと共有しました。

A : When is your special day?

B : February 14th.

A : Oh! February 14th. Why?

B : (Because) その日は、〇〇の日だから。

A : え！ 〇〇さんって〇〇だったの？

B : 実は、そうなの。

子ども自身が単元のゴールのイメージをもち、「これだけは言えるようになりたい。だって・・・」という思いをふくらませた上で、言葉に慣れる活動を十分に行います。

そして、迎えた単元の最後の活動。自分の思いを言葉に乗せ、実際に使ってみる。その日付を選んだ理由を伝えたいくなる。そして、相手の選んだ理由も聞きたくなる。言葉は「こんな時に使えた」「使ってみたらこんないいことがあった」という感覚が加わると、さらに記憶に残りやすくなるものです。そうやって感覚をともなって言葉を獲得していくことが大切です。

子どもの発想は本当に豊かです。実際の授業では、どんな理由があったと思いますか。一部を紹介します。

- ・December 24th. ずっとほしかった〇〇を買ってもらえる日だから。
- ・〇月〇日。弟が生まれた日だから。
- ・March 22nd. 小学校を卒業する日だから。
- ・〇月〇日。応援団長として、小学校最後の運動会を思いっきり楽しんだ日だから。
- ・〇月〇日。大好きな漫画の発売日だから。
- ・May 31st. 習い事の発表会の日だから。

授業者の私も子どもたちの意外な一面を知ったり、もっともっとその子のことを知りたくなったりしました。

あるワークショップでこの活動を大人向けにしてみたことがあります。大人からは、どんな理由がでてきたと思いますか？

「結婚記念日だから」「初めて母親になった日だから」など、理由を聞いただけで心が温かくなりました。伝えたい思いがある。その思いを伝えるために言葉を使い、獲得していく。そんな当たり前のことを忘れてしまいそうになることがあります。伝えたいという思いをふくらませ、伝える努力をする。下手であってもいい。伝わった喜びを感じる。その繰り返しが次への意欲につながる。そんな外国語の授業を展開していきたいものです。

Profile



矢嶋 隆之

1978年新潟県柏崎市生まれ。上越教育大学大学院修了（小学校英語）。新潟県小学校教諭として勤務し22年目。現任校には、2022年度から主幹教諭として勤務。

自律的学習者を育成する場を 外国語でデザインする



新潟市立味方小学校 進藤 豪人

変化の激しい未来を生き抜くために、子どもたちはどのような力が必要でしょうか。私は「仲間や道具を使って課題を解決する（仕事をこなしていく）力」と考えます。この力を鍛えるために、私が小学校外国語の授業で意識していることが3つあります。「単元を貫く授業構成」「ふりかえりカードの工夫」「子どもが自ら学ぶ仕組み」です。これらについて詳しく説明します。

単元を貫く授業構成

「単元を貫く」とは、単元のゴールとなる言語活動に必要なことを学んでいくということです。

ポイントは以下の通りです。

・単元末の具体的なゴールを共有

具体的に、とは「誰に」「どのように」やりとりや発表をするのか、のモデルを子どもたちと共有する、ということです。

外国語はコミュニケーションを学ぶ教科です。そのため、相手意識を育てるために、相手を明確に設定しています。例えば「ALTとより仲良くなるために自己紹介しよう」や「先生や友達と夢に近づく時間割を聞き合おう」などです。

また「どのように」ということも具体的にシェアしています。タブレットやワークシートを使うのかも踏まえて、具体的な姿を共有します。学年末にはその手段も選べるように指導しますが、最初は教師側で方法を指定しています。

・子どもが自ら学ぶ場を作る

単元のゴールに必要なことを授業で分割して指導していきます。ここで出てくる問題は「子どもごとに表現したい内容が変わるものでは、一斉指導だとうまくいかない」ということです。そのため、学習する流れとポイントを先に子どもに示し、ある一定の時間を子どもに任せています。子どもに任せると、机間指導や学び合いの中で、低位の子どもたちへのサポートの時間も多とることができます。

ふりかえりカードの工夫

単元を貫く授業では、子どもが「何をしたのか」や「何をできるようになったのか」がわかりづらいです。それをふりかえりによって、周りにも子ども自身にもわかりやすくすることができます。

・ロイロノートで1単元1枚のふり返りカード

ロイロノートは「提出箱」という先生やクラスの子どもたちと取り組んだこと共有できるアプリです。単元を通して1枚のふりかえりカードを使うことで、単元の1時間目から最後の時間まで何を学び、何ができるようになったのかをすぐわかります。

図1 単元のふりかえりカード使用例

	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目 紙テスト 練習	7時間目 本番!!
S							
A							
B							
C							
D							

・チェックリストで自己評価を上げていく

また、チェックリストを5つ設定しています。これは、子どもが自己評価できるような基準です。この基準を設定しておくことで、1単元で1枚のふり返りカード上では、自己評価が右肩上がりになっていきます。子どもは達成感や自己肯定感を感じることができるでしょう。

図2 チェックリスト基準例

チェックリスト
【発表】

- ・6文字以上で言う。
- ・まとまりのある内容を言う。
- ・リズム良く、強弱をつけて話す。
- ・適切なジェスチャーとあいづちをする。
- ・加えて、工夫をする。

自分で評価する方法

できているものが、
5個…S、4個以上…A、3個以上…B、
2個以上…C、1個以下…D

・ふり返りの書き方はYD(W)T

1時間分のふり返りは、「YD(W)T」で書くように指導しています。YD(W)Tとは、Y…やったこと、D…できたこと、W…わかったこと、T…次やること、これらの頭文字のことです。「ふり返りの書き方がわからずにスムーズに書けない子」は、少なくありません。外国語が技能教科である面もあるので、わかったことよりもできたことを重要視しています。

図3 1時間のふりかえりカード記入例

Reflection Sheet (ふりかえりカード)	Date: 12/3
Y・D (W)・T でふり返りを書きましょう。 Y (やったこと) D (できたこと) W (わかったこと) T (つぎやること)	
食物連鎖を話したり聞いたりするについて学習しました。 相手と話し合いができました。 次の授業では、タブレットを見ずにジェスチャーしたり、タブレットのプレゼンを見せながら発音よくスラスラと話せるくらい暗記しておきたいなと思いました。	

子どもが自ら学ぶ仕組み作り

・環境を整え、任せる

子どもが自ら学ぶためには「目指すゴールが明確である」「環境や道具が揃っている」「十分な練習時間がある」ことが必要です。それに加え「自己評価できる基準(チェックリスト)」がわかっていると、子どもの学びが加速します。ここで出てくるのが、子どもたちからの様々な質問です。

・お悩み解決サイト『DeepL翻訳』『ReadSpeaker』

子どもからの多い質問は「〇〇は、英語で何ですか?」と「この英語は、何と発音しますか?」です。これらに1対1で対応していると時間がいくらあっても足りません。そのため、タブレットで2つのサイトを保存させています。『DeepL 翻訳』は細かいニュアンスも翻訳できる優秀なサイトです。『ReadSpeaker』は、入力した英語を音読してくれるサイトです。話す人や音読の速度を変更できます。子どもには、コピー&ペーストのやり方も一緒に指導し、充実した練習ができるようになります。

・録音や録画を提出

わからないところが解決できたら、子ども自身のパフォーマンスの質を上げていきます。タブレットの良さは、簡単に録音や録画ができることです。「録音して送る」という活動があるだけで、子どもは「練習して良いものを提出しよう」という気持ちになります。さらに、自分のパフォーマンスを客観的に見ることがができます。録画した自分の姿を見て、前述のふり返りカードに付いているチェックリストを参考にして自己評価をします。次の授業への動機づけにもなりますし、この授業での活動(Y…やったこと)の改善にもつながります。

おわりに

小学校外国語の授業で「単元を貫く授業構成」「ふりかえりカードの工夫」「子どもが自ら学ぶ仕組み」を組み込むことで、自律した学習者を育てる一助になると考えます。子どもが成長する姿を共に楽しみましょう。

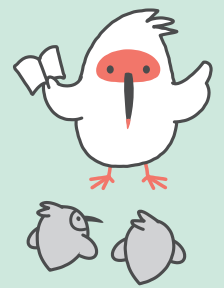
Profile


進藤 豪人

上越教育大学大学院を修了後、新潟県公立中学校教諭として勤務。その後、新潟市小学校3校の外国語専科教員として3年間勤務。現在、小学校2年生の担任。GIGA推進リーダーや5・6年生の外国語を担当。小学校の担任の先生が楽に授業ができるようにサイトで情報発信を行う。著書「すぐ実践できる! アクティブ・ラーニング 中学英語」

 進藤先生
▼ ホームページ


心が動く英語授業を目指して



小学校でも中学校でも

新潟市立下山中学校 山崎 寛己



外国語の授業を通してどんな子どもたちに育ててほしいか、どんな力を身につけてもらいたいのか、一度立ち止まって目の前の児童や生徒たちの姿を具体的にイメージしてみませんか。本稿では私が小学校、中学校で授業している(きた)内容をご紹介します。キーワードは「ワクワク感」と「心が動く」です。

ALTをおもてなし

旅行会社を作る授業(小5)

多くの教科書に Where do you want to go? を扱う単元があると思います。チャンツやリスニング練習、映像などを視聴しながら世界を知るきっかけになる人気の高い単元です。もちろん教科書通り、最後に自分の行きたい国を発表しても良いですが、ときには教科書から発展させて大きなプロジェクトを組むことも面白いです。

5年生で「旅行代理店になってALTに旅行を提案しよう!」という課題を設定しました。実際の旅行会社と共同企画をして、接客の心構えをレクチャーしてもらった上で、本物の世界旅行パンフレットを用いてオリジナルパンフレットを作成し、地域のALT達を接客しました。単元最初の授業で、「どんな表現が使えたら旅行を提案できるだろう」とクラスで考えました。児童たちは「どこに行きたいですか?」「△△ができますよ」「〇〇がオススメです。理由は□□だからです」など次々に提案に必要な表現を挙げました。そして使いたい表現の見通しを立てた上で、それら一つずつ使う場面を想定した中で学習していきました。実際の授業では、観光・買い物・食事・体験活動と4つのカテゴリについて、ALTの行きたい国に合わせて提案する形式で学習を進めていきました。

図1 授業で使用したカテゴリ



接客当日の様子を紹介します。

台湾を介しているグループのある児童の発話

Student: Do you like sightseeing?

ALT: Yes. I want to see nice scenery.

Student: OK. You can see Taipei 101.

(夜景写真を見せて) It's beautiful.

写真1 ALTに旅行を提案する様子



練習してきた表現を見事に用いて、旅行を提案する姿が見られました。何より子どもたちがいつも以上にワクワク感を持って取り組んだことで、表現することを楽しみ、結果的に自信や達成感につながったと思います。

「みんなちがってみんないい」

海外との交流を通して学んだ授業(中1)

2021年度、小学校で教科書を用いた新課程の授業を受けてきた子どもたちの英語に対する興味関心は様々でした。「英語が好きで、英検3級を持っています!」と前向きに話す生徒もいれば、一方ですでに苦手意識を持っている生徒も複数いました。

1学期、最初の単元を貫く大きな目標は自己紹介、またその相手との簡単なやりとりをすることでした。

小学校とメンバーが変わらない中学校区の特徴もあり、自己紹介とやりとりをする目的・場面・状況が見出し難かったため、新潟市の国際課の協力を得て、姉妹都市である中国・ハルビン市の学校と交流することにしました。

小学校の成果も大きく、自分を表現することには繰り返し取り組んできた生徒たちだったので、質問や応答する練習を中心に意欲的に授業に取り組んでいきました。そんな時、授業が始まる前の休み時間に「先生、オンライン交流するの嫌だ。外国人、怖いよね」と話す生徒がいました。「なんで怖いのか?」と尋ねると「なんとなく。日本人で中国の人から嫌われているでしょ。ネットで見たんだ」と発言する生徒。これはオンライン交流どころではないと、慌てて手立てを考えました。生徒たちは素直な反面、インターネットやYouTubeの情報を簡単に信用したり、先入観を持ってしまったりすることがありました。

そんな時、思い出したのが金子みすゞさんの詩でした(加賀田哲也先生・大阪教育大学教授から教えていただいた実践)。生徒たちは、小学校3年生の国語の授業で「私と小鳥と鈴と」を学習しており、その内容やメッセージをすでに知っているの、それを援用してcan / cannotの学習につなげました。

図2 詩の英訳用スライド

私と 小鳥と 鈴と	can できる	can't (cannot) できない
私が両手をひろげても、	●I () open my arms.	
お空はちっとも飛べないが、	●But I () fly in the sky.	
飛べる小鳥は私のように、	●Birds () fly.	
地面を速く走れない。	●But they () run fast like I do.	のように
私が体をゆすっても、	●I can <u>move</u> my body.	動かす
きれいな音はでないけど、	●But I () <u>make pretty</u> music.	音を奏でる
あの鳴る鈴は私のように、	●Bells () sing.	
たくさんな唄は知らないよ。	●But they () sing songs like I do.	のように
鈴と、小鳥と、それから私、	●Here are the birds, the bells, and me.	小鳥と 鈴と それから私
みんなちがって みんないい	All are different, all are great.	

特に、詩の最後のメッセージである「みんなちがってみんないい」 “All are different, all are great.” は生徒たちに響いてほしいと願いながら提示したり、一緒に読んでみました。

そして迎えた交流当日、生徒たちは6人ずつのグループとなり、iPad画面越しのハルビンの生徒に向

かって、練習してきた自己紹介を行い、もがきながらもコミュニケーションに挑戦しました。「外国人が怖い」と発言した生徒も、他の誰よりもワクワクしながら取り組んでいる姿がありました。

写真2 ハルビンの生徒と交流する様子



生徒の振り返りの内容を紹介します。

- ・私は正直、交流相手に怖いイメージがあったけど、趣味が同じだったり、日本の歌を知ってくれていて私たちと同じ中学生なんだと実感しました。
- ・言葉や外見は違うけど、通じ合えて嬉しかった。

この授業の最後に、“You can’t judge a book by its cover.” ということわざを生徒たちに贈りました。授業者である私自身、見た目や先入観に捉われることがいかに残念であるかということ、生徒の取り組む姿やその変容から改めて教えられる貴重な経験となりました。

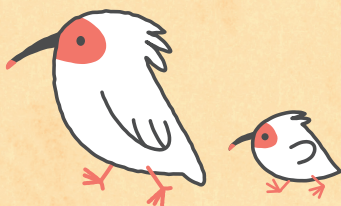
心が動くからこそ学習により一層真剣になれる

小学生も中学生も、授業が楽しくて、確かにきつい時もあるけれど、学習した表現を使ってコミュニケーションができたり、自分のことを表現したりすることができた!と言えるようになりたいはずです。それがきっと次の学習への動機付けにつながります。

新潟県の先生方、言葉を使ってワクワクする、互いの心が動くような授業を目指して一緒に頑張りましょう。

先生と子どものための

Fun with ENGLISH in 新潟



- ・QRコードは、株式会社デンソーウェブの登録商標です。
- ・ロイロノートは、株式会社Loiloの登録商標です。
- ・ReadSpeakerは、HOYA株式会社の登録商標です。
- ・YouTubeは、Google LLCの登録商標です。
- ・iPadは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- ・本資料に記載されている製品名、サービス名はすべて各社の商標または登録商標です。

—— 知が啓く。 ——
 啓林館

本 社 〒543-0052
東京支社 〒113-0023
北海道支社 〒060-0062
東海支社 〒460-0002
広島支社 〒732-0052
九州支社 〒810-0022

大阪市天王寺区大道4丁目3番25号
東京都文京区向丘2丁目3番10号
札幌市中央区南二条西9丁目1番2号サンケン札幌ビル1階
名古屋市中区丸の内1丁目15番20号ie丸の内ビルディング1階
広島市東区光町1丁目7番11号 広島CDビル5F
福岡市中央区薬院1丁目5番6号 ハイヒルズビル5F

Tel 06-6779-1531
Tel 03-3814-2151
Tel 011-271-2022
Tel 052-231-0125
Tel 082-261-7246
Tel 092-725-6677

<https://www.shinko-keirin.co.jp/>

小学校外国語・中学校英語 教授用資料

2022年10月